

◆第一分科会 [組織運営] (報告者：副会長 木村 静夫)



<会場入り口>



会 場	仙台銀行ホールイズミティ 21 大ホール
研究課題	多くの仲間と活動できる P T A 活動を求めて すべては子供たちのためみんなで一緒に活動しよう
基調講演	川島 高之氏 (N P O 法人コジカラ・ニッポン代表) P T A は “ 期間限定の特権 ” ～脱「義務感、形骸化、多忙」～
実践発表	齊藤 望氏 (前青森県平川市連合 P T A 会長) 家庭でも職場でもない「サード・コミュニティ」としての P T A の役割 ～つよい結束は、ゆるい繋がりから～
コーディネーター	阿部 清人氏 (アナウンサー)
パネリスト	瀬戸 幸子氏 (仙台市立寺岡小学校校長) 北川 和也氏 (前社団法人日本 P T A 全国協議会副会長) 川島 高之氏 齊藤 望氏

歓迎アトラクションでは、長命ヶ丘小学校 5 年生による「長命太鼓」と地元社会人による「青空応援団」のエールが行われました。どちらも私たちへの心からの歓迎が伝わる素晴らしい演出でした。応援団長が語る魂のこもった「応援することの意味」は、子供たちを支援していく私たちに勇気を与えてくれるものでした。

川島高之氏による基調講演会では自らの会長経験時をもとに、各 P T A が共通して抱えている諸問題を解決するヒントをわかりやすく説明していただきました。そして、保護者と教師、地域、子供たちとの関わりの中で、保護者が担う役割を明確にしていくことの大切さを強調されていました。

齊藤望氏の実践発表では、「対話」の手法のひとつであるワールドカフェの事例を紹介していました。5 つの間 (時間、空間、仲間、手間、隙間) がきっかけとなって「対話」が充実していき、結果として P T A の活性化に繋がることを学びました。

最後のパネルディスカッションは石川県の北川会長もパネラーとして登場されました。これからの P T A 組織づくりについて、石川県の事例も交えて自身の考えを述べていました。特に印象的だったのは、瀬戸氏の東日本大震災における経験談でした。一番共感したことは、学校と地域の連携を強くしていくことが、様々な場面で相互扶助の強さとなって現れるということです。